バリアフリーフェスタかながわについて

（概要・令和５年度総括・令和６年度方向性）

1　フェスタの概要・目的

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議（以下「県民会議」という。）では、障がい者、高齢者、妊産婦、乳幼児連れの方などが安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できる街づくりを進めている。

　その一環として、県内の障がい者等の関係団体や事業者・ＮＰＯ団体、県民からの公募委員、行政の協働により、「バリアフリーフェスタかながわ」（以下「フェスタ」という。）を年１回、開催している。

　１～４回目は相模原市内の商業施設、５回目は横浜市内の大学構内施設、６～９回目は、横浜市内の商業施設で開催した。

　このフェスタは、県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案したもので、その目的は、県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街を体感してもらうことで、バリアフリーの街づくりに対する理解を深めていただくことにある。

〔企画・立案に当たっての考え方〕

・　県民会議の理念に基づき、県民・事業者・行政が協働で実施する。

・　継続的にフェスタが開催できるよう、持続的かつ安定的な開催形態を意識して準備を進める。

・　県民から広く意見を募るよう、開催会場は誰もが自由に参加できるような場を設ける。

・　当事者団体、事業者団体等からの参加を積極的に促す。

・　県民から多くの意見をもらえる形式とする。

・　来場者が気軽・身近に感じられる参加型・体験型の内容を中心としつつ、来場者が「大変だね」「かわいそう」では終わらない、バリアフリーの必要性、支えあいの心を自然と身につけるものとする。

・　ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、来場者の誰もが安全・安心に参加できるように配慮したイベントとする。

・　フェスタ全体で統一的なテーマを設定して、各団体のコーナー運営に取り入れる。

・　何が障害を作り出しているのか、自分達に実際にできることは何か、など気づきを与えられるような工夫を各コーナーや事務局コーナーなどで行えるよう、意識して工夫を図る。

２－１　令和５年度の総括

1. 日時：令和５年11月４日（土）　11：15～17：00
2. 会場：横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、新都市ホールホワイエ、新都市プラザ（そごう横浜店地下２階正面入口前）
3. 主催：神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議
4. 内容

ア　テーマ

「だれひとり取り残さない、ともに生きる社会に向けて～バリアフリーとSDGｓ～」

　　イ　県民会議構成団体を含む18団体が15コーナーを企画し、運営

　　ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーを実施（コーナー３か所以上条件）

　　エ　上記に加えアンケートへの回答を景品交換の達成条件とする

　　オ　会場として、人通りの多いそごう地下２階正面入口前の新都市プラザを加えた。

カ　同日、県主催の介護フェアｉｎかながわが開催され、スタンプラリーコーナー等、相互乗り入れを図った。

1. 参加者数：コーナー参加者数 延1,545名、スタンプラリー達成者数236名

２－２　アンケート結果・分析

（１）来場者向けアンケート（n=242）（詳細は参考資料１参照）

ア　来場者は50代が31.0%、60代が24.0%、40代が17.4%と中高年層が多くなった。

イ　職種は、会社員19.4%、介護分野17.8%、主婦16.9%の順となった。

ウ　イベントを知ったきっかけは、家族・友人・知人等27.2%で最も多く、次にチラシが13.6%、新聞、県のたよりがそれぞれ12.8%であった。

エ　「また参加してみたいか」という問は、「そう思う」と「やや思う」で合計92.1%

オ　「バリアフリーの取組のイメージアップにつながったか」という問は、「そう思う」と「やや思う」で90.4%

オ　「バリアフリーの取組への興味関心は高まったか」という問は、「高まった」と「やや高まった」で合計84.7%

カ　「自由意見」では、「どれもおもしろかったし、気軽に参加できるところがよいなと思いました。実際に障害者の方やそのことに関わっている人のお話しや説明をきけて、とても貴重な体験ができました。（10代）」、「実際に全て体験できるコーナーがあるとより理解、関心は深まる。楽しめた。（30代）」「子供と来ましたが、…気安く声をかけてくれたので多くの体験ができました（40代）」等の意見があり、当事者等との体験型ブースへ好意的な意見が特に多く寄せられた。

1. 実行委員会向けアンケート概要（詳細は参考資料２参照）

13団体から提出あり(なおコーナー出展は18団体)。主な意見の分類分けによる課題抽出では、次のような意見が挙げられた（抜粋）

ア　目的、考え方

・　実際に体験できるようにしたことで、様々な年代の人に楽しんでもらえた。

* 「介護フェアinかながわ」が前面に出ていて、バリアフリーフェスタ本来の役割が十分に反映されていない。バリアフリーフェスタの意義について原点に戻って考える必要がある。

イ　開催場所　※地下２階新都市プラザについては後述

・　９階はアクセスしにくいのではと思っていたが、たくさんの方が来場してくださったのでよかった。

　　ウ　集客・周知

・　そごう横浜には人が沢山来ているので、そごうへの来店者に９階に来てもらう仕掛けができるとよいと思う。

・　地下２階と９階の関係性、連動性をつくるための工夫が必要と感じました。

　　エ　運営体制

・　終了時間が17時だったのでその後の景品交換所の後片付けに時間がかかった。

・　地下２階での県職員の対応が不十分に感じられた（声が出ていない、イベント担当者が地下２階にいない等）。

オ　同時開催

・　介護フェアが目的で来場した方にもコーナーに寄っていただいたり、説明をすることができたので同時開催は良いと感じた。

・　集客効果があってよいと思った。

* 「介護フェアinかながわ」のブース関係が会場内の入ってすぐの面前にありバリアフリーフェスタ関係ブースが奥の目立たない所にあるのはおかしいと思う。

　　カ　地下２階新都市プラザについて

　　　　・　地下２階での開催は啓発という点では良いかと思ったが一般の方の注目を引くまではいかなかった。

・　地下２階は別物のように感じられた。

・　場所の制限もあり、キンタロウ（着ぐるみ）もあまり動けずさみしく感じました。出来れば、９階のみにして、一体感を持ったほうが良いと感じました。

・　地下２階を使うのであれば、常時、着ぐるみやタレントを置くなどして、９階以上に盛り上げる工夫が必要。

・　メイン看板を設置したり、のぼりの数を増やすなどイベント感も増していく必要性を感じます。

　３　令和５年度開催を踏まえた対応策、令和６年度の方向性（案）

1. 目的・考え方

商業施設内での開催やＳＮＳの活用等により、普段、バリアフリーになじみの薄い方にも参加してもらえるよう、さらに周知を強化する。

また、主催の県民会議の活動内容の周知についてもあわせて強化を図る。

1. 開催日時・場所

今年度の会場について、バリアフリーに関心が薄い人の集客が可能な点や、同時開催イベントもあり、駅から近く立地が良いことから、好意的な意見が多くあった。

横浜新都市ビル（そごう横浜店）を引き続き来年度の会場とし、今年度の反省点を生かした開催としたい。

1. 集客・周知

庁内他課のアカウントで情報発信するなど、ＳＮＳでの周知を強化する。また、チラシ、県のたより等の紙媒体でも周知効果が見られたため、引き続き実施する。

「家族、友人、知人」がきっかけとなり参加された方が多いため、県民会議構成団体をはじめとしたフェスタ関係団体間においても連携を取る等して、周知を強化する。

1. 運営体制について

県民会議構成団体や出展団体等による実行委員会を立ち上げ、準備を進める。

役割分担や人員の配置について、今年度の反省を生かし適宜見直しを行う。

1. 同時開催について

当日の集客や事前広報の強化が可能となること等から、介護フェアとの同時開催を継続し、さらなる連携を検討していく。

同時開催について好意的な意見が多い一方で、バリアフリーフェスタのブースが目立たたないという意見もあった。フェスタの考え方を活かすためにも、バリアフリーフェスタの存在感をより打ち出していくための工夫を検討する必要がある。

1. 企画内容

アンケートでは体験型の企画とすることで、様々な年代の人に働きかけができたという意見が挙がった。来場者からのアンケートにおいても、体験に関する感想が多くあり、体験を伴うコーナーや当事者との対話等を通じ、バリアフリーの街づくりへの理解を深めて頂き、自らが行える対応やあり方について考えてもらうよう、引き続き努める。

地下２階に設置した子ども向けブース（ぬりえ、カンナちゃんリーフレット）は上手く活用できなかった一方、９階のぬりえコーナー（法テラス神奈川が設置）が好評であり、子ども向けコンテンツの需要自体はあると考えられる。場所等を再考して、設置を検討する。

1. 地下２階の利用について

今回、体験型コーナーを設置しつつ、イベントの周知を図ったところ。実施した結果、コーナーと呼びかけのみでは、多くの集客は難しかった。

また、今回、９階への呼び水となるよう周知エリアを設けたり、９階でも地下２階への案内を行ったが、会場間の距離が離れており行き来が難しいことから、９階と一体感を持った実施ができなかった。

こうしたことから、来年度については、①地下２階新都市プラザは使用せず、従来の９階での実施とし、会場を１か所に集約することで一体感を持ったイベントを目指すこととしたいが如何か。

なお、②もし地下２階を使用する場合、地下２階だけで独立したプログラムとして成り立つように構成・進行し、通行人の興味を引く仕掛けが必要である。その一方で、予算の制約を踏まえ、費用のかからない（又は低廉な）内容とする必要がある。また、人的体制にも限りがある中、実行委員会構成団体にて、当日スタッフを出す、企画検討の実施等を行うといった対応を検討する必要がある。

（※会場の仮予約期間の関係で、使用の有無は実行委員会前に決定する必要あり。）

４　令和６年度の開催について（案）

ア　日時

令和６年11月２日（土）　11：15～17：00

イ　会場

横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、

新都市ホールホワイエ（横浜市西区高島2-18-1）

※介護フェアと同時開催

ウ　テーマ（今後、実行委員会で決定）

・　県民に分かりやすく、伝えやすいものとする。

・　バリアフリーフェスタ出展・県民会議構成各団体が共通認識として持つことができるものとする。

・　各団体のコーナー内容に無理なく取り入れやすいものとする。

エ 今後のスケジュール（案）

　　令和６年４～６月　　出展団体募集（参加意向の確認）

　　令和６年５～６月　　第1回実行委員会開催

令和６年８月　　　　第２回実行委員会開催

　　　令和６年10月　　　 第３回実行委員会開催

令和６年11月２日　 バリアフリーフェスタ開催